

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一時がやがやとやかましかった生徒たちはみんな教場(注1)に入って、急にしんとするほどあたりが静かになりました。僕は寂しくって寂しくってしようがない程悲しくなりました。あの位好きな先生を苦しめたかと思うと僕は本当に悪いことをしてしまったと思いました。葡萄ぶどうなどはとても食べる気になれないでいつまでも泣いていました。ふと僕は肩を軽くゆすぶられて眼をさしました。僕は先生の部屋でいつの間にか泣寝入りをしていたと見えます。少し瘦やせて背の高い先生は笑顔を見せて僕を見おろしてられました。僕は眠ったために気分がよくなつて今までであったことはすべて忘れてしまって、少し恥ずかしそうに笑いかえしながら、慌てて膝の上からすべり落ちそうになっていた葡萄の房をつまみ上げましたが、すぐ悲しいことを思い出して笑いも何も引っ込んでしまいました。

「そんなに悲しい顔をしなくてもよろしい。もうみんなは帰ってしまいましたから、あなたはお帰りなさい。そして明日はどんなことがあっても学校に来なければいけませんよ。あなたの顔を見ないと私は悲しく思いますよ。きつとですよ。」

そういつて先生は僕のカバンの中にそつと葡萄の房を入れてくださいました。僕はいつものように海岸通りを、海を眺めたり船を眺めたりしながら A 家に帰りました。そして葡萄をおいしく食べてしまいました。

けれども次の日が来ると僕はなかなか学校に行く気にはなれませんでした。お腹が痛くなればいいと思ったり、頭痛がすればいいと思ったりしたけれども、その日に限って虫歯一本痛みもしないのです。仕方なしにいやいやながら家を出ましたが、ぶらぶらと考えながら歩きました。どうしても学校の門をすることは出来ないうように思われたのです。けれども先生の別れの時の言葉を思い出すと、僕が行かなかつたら先生はきつと悲しく思われるに違いない。もう一度先生のやさしい眼で見られたい。ただその一事(注2)があるばかりで僕は学校の門をくぐりました。

(有島武郎 「一房の葡萄」による)

(注1) 教場＝教室

(注2) (注2) 一事＝ひとつのこと



(1) 《解答》

あなたの顔

(2) 《解答》

ウ

(3) 《解答》

昨日そつと僕のカバンの中に葡萄ぶどうを入れてくれた先生の優しい眼がもう一度みたい、頑張ってみたいと思う気持ち。

《評価のポイント》

僕の気持ちはどの部分から読み取れるのか、根拠が明確になっているかどうかを評価する。